

愛労連第 68 回定期大会議長あいさつ

愛労連 議長 西尾美沙子

愛労連 68 回定期大会にご参加されたみなさん、おはようございます。愛労連幹事会を代表しましてご挨拶申し上げます。組合員のみなさん、日ごろはお仕事に加え組合活動に奮闘されておられ心より敬意を申し上げます。来賓の皆様には日頃よりご支援を賜りまして感謝申し上げます。

たたかう労働組合のバージョンアップで、愛労連運動は 1 年間奮闘し、組合員拡大では、5 単産・6 地域組織が純増で大会を迎えることができました。医労連は過去最高の峰を達成するとともに、毎月連続拡大では使用者の不当労働行為とたたかってきた南生協労組では 223 カ月の毎月連続拡大を行い奮闘してきました。新規結成組合は全国一般 2 組合・建交労 1 組合で組合のうぶごえをあげました。ここにみなさんと喜び合いたいと思います。しかし残念ながら愛労連全体を増勢にすることはできませんでした。第 5 次組織 4 カ年計画の検討委員会を発足し、組織強化拡大検討委員会は、2022 年 4 月 26 日から 11 回にわたり、闊達な議論を行ってきました。5 万人愛労連建設をめざし、困難を抱えている「要求を持つ当事者が声を上げ、仲間を増やして要求を実現する」とりくみを職場・地域ですすめていくために行動して組織を強化していくこと、非正規雇用労働者、青年・女性労働者の組織化と要求を大胆にすすめていくことを基調としています。

2023 国民春闘は、社会的な賃金と層とたたかう労働組合のバージョンアップで大きな前進を築いてきました。春闘では月給 3 万円以上、時給 200 円以上の賃上げ要求を練り上げ、納得のいかない回答にはストライキを配置して、3 月 9 日の全国統一行動以降、10 組合・19 職場、203 人がストライキに立ち上がりました。国民春闘の最終集計では単純平均 6483 円、加重平均 6318 円で 32 年ぶりの賃上げ水準を勝ち取ってきました。

そして、現場は深刻な人手不足です。現場の労働者・国民によりよい労働が提供できているか、妥協するのではなく、職場から地域から変えていこうと声を上げ続けてきました。「子どもたちにもう 1 人保育士を！」「なくせ！ワンオペプロジェクト」をはじめ、会計年度任用職員の劣悪な処遇改善を求める運動や教員ふやせ、残業保障を！など、現場の実態を可視化して変革を迫る運動が政治や行政を動かしはじめ、全国に波紋を広げています。当事者が声をあげる組合員参加型の運動を職場と地域の隅々に広げ、私たちの団結と行動で、職場を、地域を、社会を変えていきましょう。

最低賃金の審議が山場です。昨年 31 円の引き上げは過去最高といわれていますが、世界の最低賃金からは大きく遅れをとっています。お隣の韓国では東京を超える 1080 円の最低賃金となりました。諸外国では 1500 円以上から 2000 円です。愛知の最低賃金は 986 円、最低賃金の加重平均は 930 円と低賃金です。これはまさに異常です。最低賃金は生活保護、年金制度、人勤に影響を与えますが、最低賃金の低さが日本の暮らしを最低レベル

にしています。愛知審議会への意見書はいま 19 団体です。最低賃金審議会へ声を上げていきましょう。そして公務労働者の賃金は 900 万人の労働者に影響を与えます。公務労働者の大幅賃上げ、大幅増員で、公共の仕事をより良くしていきましょう。

マイナカード強制と保険証廃止は、国民皆保険制度そのものの破壊であり、適切な医療が受けられなくなります。政府が果たすべき役割は、今やるべきなのは保険証廃止の撤回と、マイナカードの強制をやめることです。悪法を強行する、悪法を続ける岸田政権は退陣へ！と声を上げていきましょう。

この夏、原水爆禁止世界大会への参加、核兵器廃絶、核抑止論ではなく、核兵器禁止条約に政府の参加をせまるたたかいかも全力で取り組んでいきます。

愛労連は、核のない平和な世界、格差と貧困の解消、最低賃金全国一律 1500 円の実現、社会保障の充実、一人ひとりの人権が尊重される社会をめざして、憲法をいかし、多彩な要求を実現できる 5 万人愛労連を築くために奮闘する決意を申し上げ、そして、今大会での闊達な発言で、議案を一層補強していただくことをお願いし、ごあいさつとします。

ありがとうございました。

以 上